

学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第 17 号



2015年6月7日発行

発行責任者 岡田守弘 芳川玲子

〒259-1292 平塚市北金目 4-1-1

東海大学文学部心理・社会学科
芳川研究室

巻頭言

「公認心理師法案が成立すると

学校心理士資格はお飾り資格になるのか？」

正確にカウントした訳ではないが、概観すると、学校心理士会は、学校教育関係の教員や指導員のグループと臨床心理関係の心理士やカウンセラーのグループとで、二極化しているように思われます。臨床心理関係者の昨今のブームは、なんと言っても公認心理師法案に関する国家資格問題です。それは、資格の有無で仕事ができるかどうかに関わってくるからだろうと思います。そういう意味では死活問題でもあるのです。教育関係者は、臨床心理関係者ほどの関心は無いかのように見えるのは、公認心理師法案が自身の仕事に直接影響がないからではないかと思われます。言ってみれば、対岸の火事のようなものです。公認心理師法案と抱き合わせでもないのですが、教員の国家資格制度も取り沙汰されていますが、教員の国家資格への関心は、公認心理師法案ほどに高くなっていないように見えます。教員資格が国家資格になってもなくても、仕事の遂行には大きく影響しないからでしょうか。いずれにせよ、臨床心理師も教員も国家資格をめぐる喧しい年になりそうです。

そんな状況下で、学校心理士は、いかなる方向に進んでいくのでしょうか？学校臨床の心理関係の仕事は、公認臨床心理師の独壇場になって学校心理士は不要の代物になってしまうのでしょうか？はたまた、教員国家資格により、学校臨床の仕事は教員の職制に含まれ、学校心理士の居場所はなくなるのでしょうか？さらに、ひたひたと学校へのSSWの配置が進んでいて、SSWが地位を確立するようになれば、学校心理士などお呼びでなくなるかもしれません。もともと専門性と実務が不鮮明な学校心理士は、自身の専門性とその実務をより鮮明にしなくてはならない状況に置かれているように思われます。日本学校心理士会 2015 年度大会のテーマが「学校心理士のアイデンティティを問う」になっていたり、県支部の6月7日の39回研修会で、日本教育大学院大学 大野精一教授が「学校心理士のアイデンティティをどこに求めるか ～私のキャリアと心理師法案とのかかわりで～」という演題の講演が組まれていたりするのは、学校心理士が、まさにこのような状況に直面していることを反映していることだと思われます。

教育関係や臨床心理関係といった立場を越えて、学校心理士の諸氏は、自分のこととして学校心理士のこれからについて考えなくてはならないのだと思います。

事務局 大草 正信

第37回研修会報告

日時 2014年10月19日(日)

場所 ウィリング横浜

「小規模養護施設に入所して来る児童生徒の心のケア」

ー福祉の最前線から見えてくる子どもの心、学校、親、そして行政の姿勢ー

講師 帝京大学大学院教職研究科客員准教授 新倉アキ子 先生

◆研修の概要

小規模養護施設に入所して来る児童生徒の理由から、施設での育ち直しに関わる大人たちの奮闘・努力の様子を多くのエピソードを交えながら話された。

◆感想

○親と子どもの関係

入所して来る子どもたちは、親に愛情を受け十分に手をかけられた子どもたちではない。遺棄されても親からの連絡を待ち続ける子どもたちがいる。「子どもは親を諦めることができない」「親を切ることができない子どもたち」と言う話に、子どもが不憫であり、親の身勝手さに憤りを感じる。

親元に帰る子どももいる。しかし、子どもにも親にも覚悟がないので再び施設に戻ってくることもある。家族として生きていくのに「覚悟」が必要なまでに家族は崩壊してしまっているのか。子どもが施設にいる間に、親を親として再生させるところはないのか。「社会的にもっと議論になって良いのではないか」という言葉に同感しつつ、現状に閉塞感も感じた。

○気づいた大人がすべきこと

耳に障害があっても聞こえが悪い状態でそれまで生きてきていると、「聞こえない」が当たり前。親がどうして幼いうちに気づいてあげなかったのか。目が悪い少年。「これ見える？」と聞いても「見える」と答えていた。目の手術をしたら意欲が変わった。塾に行き出し、「運転免許を取りたい」と言う。

耳や目の障害さえそれまで周囲はほったらかしにしてきた。知的な問題や心理的な問題などさらに気づかれずにいたのではないか。親ばかりの問題ではない。学校の教師などは、どこかで聞こえ方や見え方に疑問を持ったのではないか。「気づいた時に、気づいた人が、踏みこんでほしい」という言葉が心に残った。

○学校ができること

学校は、子どもたちが多くの時間を過ごしている。教師は感度を高め、「気づき」に鈍感になってはいけない。お話の中で、中学3年の夏に転入した生徒に「高校だけは行かせたい」と教員がチームを組んで勉強を教え高校に合格させたエピソードが紹介された。「学力が付いていないことが一番の問題」というお話に、教師として当然なすべき事を再認識させられた思いがした。

第38回研修会報告

日時 2015年2月22日(日)

場所 相模女子大学マーガレットホール

「教職員のメンタルヘルス支援」

講師 東京都教職員互助会 三楽病院医師 真金 薫子 先生

◆研修の概要

教職員のストレスの現状から、学校現場の特徴とメンタルヘルス対策について語られ、自らのメンタル面のケアや職場内で同僚として配慮すべき事までお話された。

○教職員の置かれた現状の特徴

- ・児童生徒、保護者、同僚など教職員の業務は「対人関係」の業務であり、うまくいかない時はほぼ「人間関係のトラブルがある」という特有の難しさがある。
- ・教育現場の課題の増加と多様性に比較して、対処するための時間的、労働的、技術的などの側面に困難さがある。

○公立学校教員の病気休職者について

- ・2009年をピークに漸減していたが、高止まり(5000人を超える)の状況が続いている。
- ・新規採用教員の病気による退職者の9割は精神疾患による。また、全体でも(=新規採用及び定年・勸奨退職を除く)病気による中途退職者の半数以上が精神疾患による。
- ・1校に複数名の休職者がいることも珍しくない。

◆職場のメンタルヘルス対策

・セルフケア

ストレスを感じている自分に気づく。そのためにも、日頃から自分のコンディションを把握する癖をつける。リラックスできる方策を見つけたり、安心できる人間関係を持つようにする。

・ラインケア

校長一副校長・教頭一主幹一教員などのライン。一教員のメンタルヘルスの危機から周囲の教員の負担増や士気の低下につながり、学級崩壊などに向かわないように組織として対応することで力を発揮する。ラインケアが有効に働けば、発症のリスクの軽減、復職時の再発防止に対する効果は大きい。管理職は話かけやすく、相談しやすいことが大切。

・相互ケア

ラインケアを補い、セルフケアを支援するものとして同僚間の「相互ケア」は非常に強力。ストレス軽減の要因として「同僚等との職場を離れたコミュニケーション」が挙げられておりメンタルヘルス不全に陥った教員のみならず、職場全体に良い影響が期待できる。人助けは、自分のメンタルヘルスにも寄与する。

◆課題とまとめ

教育現場として果たすべき課題に対して、無理のない業務の質・量で対処し且つメンタルヘルスを保つ職場環境づくりが課題である。セルフケア、ラインケア、相互ケアの有効性を高めるべき。カウンセラーや医師など、事業場内外の資源の有効活用も望まれる。

本の紹介



「ユニバーサルデザインの視点を活かした指導と学級づくり」

柘植雅義 編著 金子書房 1404円(税込)

現在、学校現場で注目を集めている「ユニバーサルデザイン」に焦点を当てて、その理解の仕方や歴史的経緯という基本知識から、学校現場での具体的な実践まで幅広く紹介しています。「誰もが学びやすい授業のデザインとは?」「国内外の『ユニバーサルデザイン教育』の実践」「学校全体で取り組むユニバーサルデザインとは」など、わかるできる授業を考える好著。

2015年度の主な予定

- 2015年度神奈川支部第17回総会・第39回研修会
6月7日(日) **ウィリング横浜**
第17回総会 14:00~14:30(受付13:30~)
第39回研修会(2015年度春季南関東ブロック研修会) 14:30~16:30
「学校心理士のアイデンティティをどこに求めるか」大野 精一先生(日本教育大学院大学)
- 第40回研修会
10月18日(日) **ウィリング横浜**
研修テーマ「神奈川県インクルーシブ教育の方向性と今後の展望」(仮題)
講師: 田口 雅巳氏(神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課)
- 第41回研修会
2016年2月14日(日) 会場: ボーノ相模大野(ユニコムプラザさがみはら)
研修テーマ・講師 未定

お知らせ



祝

春の叙勲において、神奈川支部名誉学校心理士の早稲田大学名誉教授 並木 博 先生が、瑞宝中綬章を受章されました。心よりお祝い申し上げます。

会員の住所変更の提出

住所が変更になった場合の提出先は、神奈川県支部事務局ではなく、学校心理士会本部です。住所変更の申し出は多くなっていますが、お間違えないようお願いします。

神奈川支部創立20周年記念について

今年で学校心理士会神奈川支部創立16年目を迎えます。創立10周年(2009年)の際も記念行事と冊子の発行を行いました。今後、創立20周年に向けた準備に入りたいと考えます。

日本学校心理士会 2015年度大会

- 期日: 2015年8月8日(土)・9日(日)
- 会場: 道民活動センター かでの2・7(北海道札幌市中央区北2条西7丁目)
- 大会テーマ: 一学校心理士のアイデンティティを問うー
- 基調講演: 「学校心理士のアイデンティティとは」

日本学校心理士会会長・筑波大学副学長 石隈 利紀 先生

日本学校心理学会 第16回大会

- 期日: 2015年7月18日(土)・19日(日)
- 会場: 大阪教育大学天王寺キャンパス (大阪市天王寺区南河堀町4-88)
- 大会テーマ: 一多様な援助ニーズに応える学校心理ー
- 基調講演: 「スマートホンやネット上での『いじめ』を考える」(仮題)

兵庫県立大学准教授 竹内 和雄 先生

[編集後記]昨今のニュースから、社会や教育を巡る情勢が急激に動いていると感じます。子どもに関わる仕事に携わっている者としての足元を問い、日々の実践を見つめていかなければならないと思います。教育は百年の計、子どもは未来を担うものである、と改めて心に刻み、子どもたちの健やかな成長に寄与できる学校心理士でありたいと思います。 編集担当: 奥村 ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp (編集部)